

設置の趣旨・必要性

(a) 教育研究上の理念、目的

本学は「社会に喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材の育成」を理念とし、日本の産業、ことに中部圏における産業界に役立つ高度技術者の養成を目的としている。

昭和62年に設置されていた愛知技術短期大学の改組転換により、平成12年、工学部に電子情報工学科と機械システム工学科の2学科を擁する4年制大学の愛知工科大学が設置された。設置以来6年を経て、社会の変化、産業界の技術の進化により、教育に対するニーズも変化し、勉学を希望する学生の動向も変化してきた。学部学科は本来学問分野の一般化された名前にすべきものであるが、時代の進化とともに学問分野に収まりきれない境界領域の分野が、魅力ある新規性をもって受け入れられ、それが、また新しい分野形成されてきているのが現状である。従って、より広がった情報分野を包含出来る学科とするために、機械と電子の技術要素を組み合わせ、ロボットシステム工学科、情報技術を様々な側面に応用するための情報メディア学科を設置することとした。

(b) どのような人材を養成するのか。

イ. 学部、学科の特色

機械システム工学科

「ものづくり」の基幹となる機械工学の基礎学問を修得し、それらをもとに設計製作するための理論と技術を修得する。その集大成として、各種産業・交通機械の製造技術を学び、さらに、将来の環境・エネルギー問題を見据えた新製品・新生産システムの開発を目指す人材を養成する。

ロボットシステム工学科

ロボットは最近、非常に注目され、様々な分野に活躍の場を与えられており、ロボットを作る人、ロボットを取り扱える人、が求められている。しかし、ロボットは機械技術、電子技術、コンピュータ技術を組み合わせた総合的工学技術が要求される。これに応えるため、メカトロニクス分野と電子制御分野を合わせて、学習出来るように配慮し、総合技術の扱える人材を育成する。

情報メディア学科

情報化社会はあらゆる分野を変革し、拡大を続けている。コンピュータを用いた情報処理、ネットワーク、高速通信、セキュリティなどの情報システム分野は勿論のこと、映像、音声、グラフィック等の人間の感性が関わるメディアデザイン分野に加えて、経営、医療・福祉の分野で、コンピュータ技術が不可欠なものとなってきた。情報メディア学科はこれらの分野を包含して、社会の要請に応えるための人材育成を目指す。

ウ、教育課程の編成の考え方及び特色

工学部において履修する科目は、大別して基礎教育科目と専門科目とに分かれてい

る。基礎教育科目は3学科ほぼ共通した科目編成となっており、大学に於ける教養科目を含めて基礎学問を修得させる。専門科目は、3学科それぞれに対応した特色のある科目を配しており、その学科としての必須科目は履修させ、選択科目において、自由に選択できるようにさせる。機械系、ロボット系、情報系の、それぞれの分野では他学科の開講科目を履修することにより、より効果的な学習をさせることも出来る。但し、他学科の単位は上限を設ける。

また、1年次、2年次の学年末に転学科の希望に対して、教授会の議をへて可能としている。

エ、教育方法及び履修指導方法

基礎教育では広い知識と学習経験が得られるように、選択科目として、自由度の大きい教養科目が配置されている。また、語学では最低限の英語に関する知識とトレーニングは必修としている。専門科目では学科別、及びコース別に特色ある科目が系統的に配置されている。即ち、機械システム工学科では産業機械コースと交通機械コースの2コース。ロボットシステム工学科では、メカトロニクスコースと電子制御コースの2コース。情報メディア学科では、情報システムコースと情報メディアデザインコースの2コースを設けて、学生が特色ある授業科目を系統的に履修できるように工夫されている。なを、それぞれの学科の専門科目についての履修モデルを添付する。

オ、入学者選抜の概要

入学は推薦入学と一般入学試験により入学選抜を行っている。推薦入学においては本学の教育内容と目的に適合すると認められる者に対して、所定の推薦方法により入学定員の約40%入学させる。一般入学試験では、決められた成績以上の者の入学をさせる。また、大学入試センター試験の制度を利用して、決められた成績以上の者を無試験で入学させている。また、特徴のある学生の確保のために、AO入試の方法を利用して、若干名の入学者を確保するようにしている。

カ、編入学に関して、

- ・ 既修得単位の認定方法

編入学に関しては学則に定める有資格者に対して、編入学試験を実施し、本学の2年次修了と同等以上の学力を有すると判断されるものに対して、本学の決められた単位を認定する。この科目と認定単位は別紙に資料を添付する。

- ・ 履修指導方法

編入学後の履修指導は、原則として3年次の学生と同等に扱うが、但し、学科により重要科目、特別の必要が認められた場合には、補習授業、3年次編入生のみクラス編成による授業など、適宜、教務委員会レベルで判断して、教授会の議を経て実行する。

キ、自己点検・評価

平成12年開学以来、学生に対する授業評価のアンケート調査を行い、その結果を集計し、各教員へフィードバックし、教員のコメントを付して、纏めて年報とし

て報告することとしている。年報には教員の研究業績も合わせて掲載することとしている。平成17年度自己点検評価報告書を作成中である。

ク、情報の提供

工科大通信：大学の在学生、卒業生の機関誌として年1回6月頃発行している。

愛知工科大学紀要：毎年1回、年度末に発行している。内容は、教員、職員から寄稿された論文、報告、その他の著述と、年間の研究業績を纏めたものを巻末に掲載している。これを、関連の深い機関、全国の大学の図書館へ寄贈している。

ケ、教員の資質の維持向上の方策：

- 1．授業内容に関しては、学生にアンケートを毎期末に実施してその統計的集約を年報で行っている。しかしながら、各教員へのフィードバックは必ずしも十分ではなく、FD活動のさらに十分な検討が必要である。
- 2．基礎教育支援センターが主体となり、教育方法に関する講演会を行って、教育方法についてのFD活動としている。
- 3．グループ研究を奨励している。数名の教員が特定のテーマによって研究を企画し、特別研究費を支給して、研究活動の活性化を図っている。